



「道具としての用途が、
網目のかたちを決める」

しの竹細工工人・千葉文夫さん

300年の伝統に現代感覚を盛り込んで

岩出山の第4代城主・伊達村泰公が武士の手仕事として奨励したことには始まるしの竹細工。以来300年にわたる伝統を未来に受け継ぐべく、職人として、また指導者として活動しているのが千葉さんだ。「しの竹細工は、生活に密着した台所用具として愛されたものですが、用途に合わせて形や網目が決まるんです。竹の皮だけを使い、その表皮を内側に編みこんでいくので使う人の手にやさしく、水切れ

もいいのが特徴。それだけに、手間の多さも相当なもの。かつては2000人以上いた職人も、今では50人ほどになつてしまいました。しかし、現代の様式に取り入れやすい商品の開発も進み今では遠くから技術を学びに来る人も多くなり、また商品のアイデアをいただくことも増えてきました。新しい職人を育てるとともに、「遺す(のこす)」のではなく、「発展させる」「伝統のありかたを考えていきたいですね」。



「眼を入れる時には、
息をとめて描くんです」

伝統工芸士・菅原和平さん

鳴子こけしの愛らしさに秘めた職人技

江戸時代、お椀やお盆を挽く木地師が子供のための玩具として作り与えたのが始まりとされているこけし。「こけし」の首の部分は胴体中に空いた穴よりも大きいんです。口くちを回しながら「一気にはめ込む。キュッキュ」と鳴る鳴子こけしの特徴は、この首入れの技術あつてのものです。鳴子伝統こけしの第一人者・菅原さんが、そう言いながら実演してみせてくれる。素材となる「ミズキ」を秋口から伐採し、

1年間寝かせて乾燥。口くちを回しながら削り、描彩、蠟仕上げまで、全く気を抜けない作業の連続だ。「買われた方に、子供を見るような気持ちで大事にしてみよう」と思っているんです。だから、顔のいのである眼を描く時にはいまだに緊張します。40年間、こけし一筋に歩んできた菅原さんが、心を込めて作っているこけし。かわいらしい姿に秘められた技と心が、長く愛される理由なのだ。



「いつも、静かな気持ちで。ただそれだけです」

鳴子漆器工人 後藤常夫さん

「用の美」を極めた鳴子漆器の真髄

今から約380年前、伊達政宗公の命により始まったと伝えられる鳴子漆器。鳴子ならではの産業として、今も多く職人が工房を構えている。中でも50以上の塗りの技術を持ち、数々の賞を受賞している後藤さんは、現代の鳴子の塗り師の代表的存在だ。「鳴子漆器は、お椀やお盆といった日常の生活用品。だから自分の手になじむものを選んで長く使ってほしい。最初から漆で

けを塗り重ねる塗り物だから素材に思えるけれど、その分しっかりした技術と手間が必要。絶対に手抜きをしないで、いつも静かな気持ちで塗りの作業自体と対面する。それが私の信条です」。鳴子漆器協同組合の理事長を務める今となつても、後藤さんの真摯な姿勢は変わらないう。時とともに磨かれ、光沢を増してゆく鳴子漆器の中に、工人としての魂を見る思いだ。

大崎が誇る 伝統工芸

しの竹細工、鳴子こけし、鳴子漆器

手作り体験施設

大崎市が誇る伝統的工芸品の数々。その工芸品を、手作り体験できる施設があります。職人の指導のもと、自分だけのオリジナル作品を作ってみましょう。



竹工芸館
(たけこうげいかん)

MAP P22

竹の美しさ、しなやかさを肌で感じる東北一の竹細工ギャラリーを目の前に、さまざまな竹細工の手作り体験(300円～・要予約)ができる。指導員が丁寧に教えてくれるので、初めての方でも安心。

■住所／大崎市岩出山字二ノ構115
■電話／0229-73-1850
■営業時間／9:00～17:00 ■休／水曜、年末年始
■入館料／無料



日本こけし館
(にほんこけしかん)

MAP P15

世界でたったひとつ、自分だけのこけしをこけしの絵付け体験(1,050円)が気軽にできる施設。館内では、歴代名工の作品や、約5,000点の東北の伝統こけしなど、多彩な表情のこけしが鑑賞できる。

■住所／大崎市鳴子温泉字辰前74-2 ■電話／0229-83-3600
■営業時間／8:30～17:00(12月9:00～16:00)
■休／1月1日～3月31日
■入館料／大人320円、高校生160円、中学生110円、小学生80円
■HP／http://www.kokesikan.com/

伝統の技と ロシア民芸品が コラボレーション!?



鳴子縁起マトリョーシカ

ロシアを代表する民芸品のマトリョーシカ。その白樺の木地に、鳴子こけし工人在絵付けをした「鳴子縁起マトリョーシカ」が誕生。話題を集めている。

■販売店／
桜井こけし店(0229-83-3460)
■価格／9,500円(5個セット)



鳴子漆器

しっとりとした 手触りに幅広い用途

ケヤキやトチなどの木を用い、塗りは木目を生かした木地呂塗やふき漆仕上げ、また独特の墨流しの技法である電文塗などがある。上品な光沢と堅固さが魅力。

鳴子伝統こけし

華やかさと可憐さに 満ちたデザイン

安定感のあるシルエット、首を回すと鳴る「キュッキュッ」という音が特徴。胴に描かれる模様は「重ね菊」といい、横から見た菊の姿を重ねて描くものが代表的。



岩出山しの竹細工

美しい網目と 使いやすさで人気

柔軟で弾力がある「しの竹」の特徴を活かし、ざるや籠をはじめとしたさまざまな製品がある。なめらかな表皮を内側に編みこむことで、手なじみも抜群。

節目のイベントにも注目!

第60回全国こけし祭り 第24回鳴子漆器展

東北地方のこけしが勢揃いする祭典。こけしの絵付け体験コーナーや鳴子漆器の展示即売もある。

■会場／鳴子小学校体育館、鳴子温泉街(お祭り広場)
■開催日／9月5日(金)、6日(土)、7日(日)
■時間／鳴子小学校体育館／6日10:00～18:00、7日9:00～17:00
鳴子温泉街／7日18:30～21:30
■問合せ先／0229-82-2026(全国こけし祭り実行委員会事務局)